

ろうさい病院便り

第60号

令和7年10月1日号広報ちらら台へ掲載しました

口は災いの元

千葉ろうさい病院
手術看護認定看護師 末永 直美

虫歯は「歯だけの病気」と思われがちですが、実は全身の健康や手術にも影響します。虫歯とは、口腔内に常在する細菌、特にミュータンス菌などが歯質を破壊して進行する感染症です。初期には歯の表面だけの問題ですみますが、進行すると歯髄炎や歯周炎を起こし、口腔内に慢性的な感染巣を形成してしまいます。こうした病巣は、全身状態や免疫力の低下（手術や全身麻酔など）を背景に、血液にのって他の部位へ虫歯の細菌が運ばれていく可能性があります。手術を受ける患者さんにとっては、口の中の細菌（虫歯）が手術部位感染のリスク因子となり得ます。特に人工関節の手術や心臓の手術のように、体の中に人工物を入れる手術では、口の中の細菌が大きなリスクになることが知られています。普段は大きな問題にならない虫歯も手術を受けるときには注意が必要なのです。そのため、多くの病院では手術の前に歯科を受診し、虫歯や歯周病の治療を行うことを勧めています。手術前にお口の中をきれいにしておくことで、感染の危険を減らし、手術を安全に受けられるようになります。

また、手術後も歯みがきやうがいなどの口腔ケアを続けることが、全身の回復を助けることにつながります。つまり、虫歯を放置すると手術の後に思わぬ感染を招くことがあるため、手術を控えている方は歯の治療や口のケアをしっかりと行なうことがとても大切です。まさに「口は災いの元」になるのです。

